

災害地における被災地の感染症予防について

看護師 末永 信子

平成23年6月29日、第一三共株式会社の医療環境担当マネージャー近藤さんをお迎えして、上記のテーマでお話をお聞きしました。まだ記憶に新しい今年の3月11日の大震災、傷も癒えておらず、また関東直下型地震の可能性も囁かれている現在、心も体も備えをしておかなければならないと思っていたところでした。

阪神淡路大震災より学んだものは多く、それが今回の災害医療派遣チームやボランティアスタッフにも活かされていると感じました。また避難所での感染に対する被災者の方への指導・教育も手洗い・トイレの清掃も含め、分かりやすく効果的なものでした。

感染予防の8カ条を挙げてみます。

「可能な限り守っていただきたいこと」

- 1、食事は可能な限り加熱したものをとるようにしましょう。
- 2、安心して飲める水だけを飲用とし、きれいなコップで飲みましょう。
- 3、ごはんの前、トイレの後には手を洗いましょう。(水やアルコール手指消毒薬で洗ってください)
- 4、おむつは所定の場所に捨てて、よく手を洗いましょう。

「症状があるとき」

- 5、咳が出るときには、周りに飛ばさないようにクチを手でおおひましょう(マスクがあるときはマスクをつけてください)。
- 6、熱っぽい、のどが痛い、咳、けが、嘔吐、下痢などがあるとき、特にまわりに同じような症状が増えているときには、医師や看護師、代表の方に相談してください。
- 7、熱や咳が出ている人、介護する人はなるべくマスクをしてください。
- 8、次の症状がある場合には、早めに医療機関での治療が必要かもしれません。医師や看護師、代表の方に相談してください。

- ・咳がひどいとき、黄色い痰が多くなっている場合
- ・息苦しい場合、呼吸が荒い場合
- ・ぐったりしている、顔色が悪い場合

※特に子供やお年寄りでは症状が現れにくいことがありますので、まわりの人から見て何かいつもと様子が違う場合には連絡してください。

(東北大学大学院医学系研究科 東北感染制御ネットワークより引用)

ライフラインは、電気・ガス等ありますがやはり最も重要なのは水道と思われます。飲料水・調理の水・洗濯の水・入浴・トイレ・消火に備えた水。院長先生が被災時病院でのトイレを心配されてましたが、汚物が流せないからといって食事や飲水をセーブするわけにもいかないし、処理が出来なければそれも感染症の源となってしまう。切実だなと思いました。

勉強会に参加したスタッフの意見としては「日頃よりの準備が必要」「一人一人が対応できるように備えることが必要」などの意見が多く出ました。スズキ病院でも定期的な防災訓練を続けていく予定です。病院としても医療人としてもまた一個人としても備えができるよう心がけていこうと再認識できた勉強会でした。

